

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 64	提案機関名 環境農政局農政部畜産課
要望問題名 脱臭機能付帯型ウインドレス豚舎の脱臭廃液の性状及び家畜用浄化槽での浄化処理の可能性について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 混住化の進んだ本県で畜産経営をする場合、地域住民に配慮した経営が求められる。特に悪臭発生抑制には最大限の配慮が必要であり、現在畜産技術センターを中心に各種研究や現地での粉塵の拡散防止技術の検討がなされている。また県内では、ウインドレス豚舎内に脱臭機能を付帯した豚舎の建設がすすめられ、事例が増えつつある。そのような中、脱臭後の廃液の性状について、それを家畜用浄化槽に投入して処理した報告などがなく、その処理が今後の課題でもある。 そこで畜産技術センター及び県内の養豚場で稼働しているウインドレス豚舎付帯の脱臭槽の脱臭液の性状を調査するとともに家畜用浄化槽での豚舎汚水と脱臭廃液との同時処理が可能かどうかの知見を得て情報発信してほしい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 環境制御型養豚施設の実証試験(令和1～2年度) 活性汚泥を用いた畜舎汚水と臭気の同時処理技術の開発(平成15～17年度)			
対応の内容等 当所では過去に、豚ふんの強制発酵装置排気の脱臭廃液を畜舎汚水と同時処理する技術について試験を行い、同時処理が可能な技術を示すとともに、処理可能な脱臭廃液及び畜舎汚水の性状を報告しています。 当所で稼働しているウインドレス豚舎付帯の脱臭装置では、豚舎排気に含まれる悪臭成分が脱臭装置内の循環水に溶け込み、悪臭成分とその分解産物が蓄積した廃液が日常的に排出されます。豚舎排気には、強制発酵装置の排気と同様にアンモニアが含まれることから、脱臭廃液には窒素化合物が蓄積すると考えられます。現在、同様の脱臭装置を設置した県内農家の1事例とあわせて、廃液の水質及び発生量の調査に取り組んでいます。先の試験で示した処理可能な性状であるか確認し、情報提供に努めます。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			